

第51回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	宮川ゼミ	チーム名	どらごんどりーむ
タイトル	"恋" ～胸の中にあるもの～ (恋愛から生まれる利得)		
テーマ群	g) その他		
メンバー	岸本龍夢 林晴哉 樋口希 梁原啓佳		
研究計画内容	<p>・ 研究の背景と目的</p> <p>私の友達は恋人が欲しいと言いつけている。このような大学生は少なくはない。実際に恋人がいるのは限られた人たちである。そもそも恋人がいる方が幸せなのか？恋人を作るには何が必要なのか？恋人が出来るまでのプロセスに行動経済学を応用する。</p> <p>・ 研究内容</p> <p>大学生を対象としたアンケートを用いて恋人がいる時といない時の幸福度の差を分析したところ、恋人がいる方が幸福度が高いという結果がわかった。また支出の増減に注目し、恋人に対する支出が多いほど、または恋人がいない人においても何かしらの支出が多いほど幸福度が高いということもわかった。これらの結果を踏まえたうえで、さらに詳しく男女別でアンケート調査を実施し、男女の幸福の感じ方の違いを調べた。現在のところ、データの差を見ただけなので、回帰分析や因果推論に着目した様々な統計的手法を駆使して、上記のデータの因果関係を統計的に明らかにしていく。</p> <p>ところで、恋人がいる方が幸福度が高いといっても恋人がいない人はどうしたらいいのだろうか。そこで、恋人を作るまでのステップを①デートする→②告白するの2段階に分け、行動経済学的に有効なアプローチの必勝法をアンケート調査のデータ分析や既存研究から編み出す。デートが成功するには？自分の魅力をあげるには？何回目のデートが大事なのか？金銭はどうしたら良いのか？といった内容を行動経済学的手法で検証する。</p> <p>・ 期待される効果</p> <p>「幸せはお金で買えない」という人もいれば、「幸せにはある程度のお金が必要だ」という人もいる。多種多様なお金の価値観がある中で、私たちの研究内は、お金と幸福度の関係にも重きを置き、行動経済学や行動心理学の観点から恋愛の進展方法を考えた。本研究は恋人を作るために、または恋人を作らなくとも、相手の気持ちを考え、読み取り、戦略を立てることで今後の自らの人生に役立てることができるだろう。</p> <p>参考文献 エヤル・ヴィンター (2017.3) 『愛と怒りの行動経済学:賢い人は感情で決める』早川書房</p>		